

(5) 指導と評価の計画(単元構造図)について

指導と評価の計画って何？



○指導と評価の計画は、単元構造図とも言われ、その単元について、「いつどのような指導し、いつ評価をする」という見通しをもつものです。今回は、水泳の授業を例に挙げています。

まず、その単元の学習の目標(育成したい、3つの資質能力)を示します。

横軸は、単元の計画を、縦軸は、1単位時間の計画を示します。その際に、可能な限り詳細に示すことで、見通しをもちやすくなります。

D 水泳 単元構造図 ○○学校 第○学年

学習目標 (学習指導要領の内容)		知識及び技能 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性が成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができるようにする。									
		(思考・判断・表現等) 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
		(学びに向かう力等) 水泳に積極的に取り組むとともに、一人一人の違いを認め、取り組むことができるようにする。また、ルールやマナーを守り、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ることができるようにする。									
		指導の工夫									
学習の流れ (学習指導要領の内容)	オリエンテーション・学習の約束・水泳の心得	スタート(け伸びからキック)	クロール			課題に応じた練習を行う				ICT機器	ICT機器
	健康との関連・AED、心肺蘇生法、応急手当	知②名称・行い方・図、動画の活用・プールサイドでパディ確認	知②名称・行い方	技①足の蹴り方	技②手のかき方	技③一連の動き	●中間の課題を見付けよう	●課題に応じた練習方法を選びよう	●一人一人の違いに応じた挑戦を認め、記録を伸ばそう	ICT機器	ICT機器
	調べ学習	●クロールの泳法を試技し、分析しよう	●クロール・個人の体力や技術の程度に応じて、泳ぐ速度を計り記録に挑戦しよう	●前時の出来映えをふり返り、自己の目標とする記録に挑戦しよう	●ICT機器を活用し、ICT機器を有効に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう
	体育理論との関連	●クロールの泳法を試技し、分析しよう	●クロール・個人の体力や技術の程度に応じて、泳ぐ速度を計り記録に挑戦しよう	●前時の出来映えをふり返り、自己の目標とする記録に挑戦しよう	●ICT機器を活用し、ICT機器を有効に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう
	全体発表	●クロールの泳法を試技し、分析しよう	●クロール・個人の体力や技術の程度に応じて、泳ぐ速度を計り記録に挑戦しよう	●前時の出来映えをふり返り、自己の目標とする記録に挑戦しよう	●ICT機器を活用し、ICT機器を有効に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう	●ICT機器に活用しよう
まとめ											
指導	①成り立ち ③体力	④スタート	①足の蹴り方	②手のかき方	③一連の動き						
評価	①・③	④	②公正	②	③責任	①課題発見	②練習方法選択	③表現	④共生		
評価						①	②	③	④	総括的評価	学習カード 様相観察 学習カード、様相観察 様相観察、学習カード

知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水泳は、近代オリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることについて、言ったり書き出したりしている。(成り立ち) ②水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面的名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。(名称・行い方) ③水泳は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。(体力)	①一定のリズムで強いキックを打つこと(足の蹴り方) ②水中で肘を曲げて腕全体で水をキャッチし、S字やI字を描くようにして水をかくこと(手のかき方) ③プルとキック、ローリングの動作に合わせて横向きで呼吸をすること(一連の動き) ④水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線形の姿勢を取って壁を蹴り泳ぎだすこと(スタート)	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、何問の課題や出来映えを伝えている。(課題発見) ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。(練習方法選択) ③体力や技術の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間へ伝えている。(表現)	①積極的に取り組み、発達段階に適した練習の進め方や場を選ぼうとしている。(積極性) ②ルールやマナーを守り、健康・安全に配慮しようとしている。(公正) ③用具等の準備や後片付け、計測などの分担した役割を果たそうとしている。(責任) ④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。(共生)

② 単元の中で、いつ指導するのかを示します。

③ 評価規準で示された指導する内容を、いつ評価するのかを示します。

① この単元で、何をどのように評価するのかを示します(評価規準)。

指導するタイミングと評価するタイミングは、身につけさせたい資質能力によって違います。いつ指導し、それをいつ評価するのか、よく考えて作成しましょう。
(例) 「知識」や「思考・判断・表現」は、指導したことをすぐに評価できる。
「技能」や「態度」は、身に付けるには、少し時間がかかるため、数時間後することが望ましい。

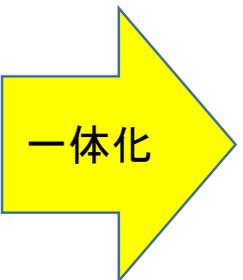
※ 知識は、ペーパーテストだけで、技能は、スキルテストだけで、評価するものではありません。
評価する時間に生徒の活動を評価してください。
授業中の生徒の様子をしっかりと見てください。



「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの観点



指導したことを
知識・技能だけではありません!
思考・判断・表現等や態度もしっかり指導してください。



バランスよく評価
知識・技能だけではありません!
思考・判断・表現等や態度もしっかり評価してください。

